

201028050A (別添あり)

厚生労働科学研究費補助金

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究

平成22年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 桐生 康生

平成23(2011)年 3月

平成22年度

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究

研究組織

研究代表者

藤井紀男 国立感染症研究所 企画調整主幹
(2008年8月から2010年7月まで)

桐生康生 国立感染症研究所 企画調整主幹
(2010年8月から2011年3月まで)

研究分担者

影山 努 国立感染症研究所
インフルエンザウイルス研究センター 室長

谷 伸悦 国立感染症研究所 国際協力室 室長

東 敏昭 産業医科大学 産業生態科学研究所 作業病態学 教授

研究協力者(PO)

内山武彦 常磐大学人間学部健康栄養学教授
神田忠仁 (独)理化学研究所新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター
業務展開チーム チームリーダー

森 亨 桔核予防会結核研究所 名誉所長

脇田隆字 国立感染症研究所ウイルス第2部 部長

(所属・役職は、研究班参加時のもの。
研究分担者、研究協力者は、五十音順・敬称略)

目 次

I. 総括研究報告

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究…………… 1

桐生 康生 国立感染症研究所企画調整主幹

【資料】

1. 平成22年度新規採択課題(1年目研究課題)
2. 平成22年度継続課題(2年目研究課題)
3. 平成22年度終了課題(3年目研究課題)
4. 研究班会議出席状況等
5. 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業新規研究課題
について

Ⅱ. 分担研究報告

研究評価支援システムの開発……………	21
桐生康生 国立感染症研究所 企画調整主幹	
疫学的方法論に基づく研究分類(研究デザイン)について……………	25
東 敏昭 産業医科大学産業生態科学研究所作業病態学 教授	
感染症に関する国際情報収集……………	29
谷 伸悦 国立感染症研究所 国際協力室室長	
桐生康生 国立感染症研究所 企画調整主幹	
新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究 (分担報告)……………	31
影山 努 国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター	
プレゼンテーション・ファイル規格のレビュー……………	35
桐生康生 国立感染症研究所 企画調整主幹	

【別添】

平成22年度厚生労働科学研究費補助金

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業研究成果の概要

厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)
総括研究報告書

平成22年度 新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究

研究代表者 桐生 康生 国立感染症研究所 企画調整主幹

(注) 人事異動のため、年度途中で藤井紀男氏より研究代表者を交替した。

研究要旨

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の適切かつ円滑な実施を図るため、新興・再興感染症関連研究に関する情報の収集及び当該研究事業において実施される研究の企画・評価及び研究実施の支援を行うとともに、今後、当該研究事業の一層の推進に資する評価者、研究者等への支援方法について検討を行った。

研究分担者

谷 伸悦 (国立感染症研究所)^{注1}

影山 努 (国立感染症研究所)

東 敏昭(産業医科大学)^{注2}

注1 平成22年4月～平成22年7月

注2 平成22年8月～平成23年3月

根拠を提供するための研究の推進を図っておくことが必要である。

厚生労働省においては厚生労働科学研究費補助金・新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業を中心として行政ニーズに直結した新興・再興感染症研究を推進しているが、当該事業を適切かつ効果的に実施することは対応を行う上で不可欠であり、研究課題の設定、研究者の選考、研究費の配分、研究成果の評価と研究を実施する研究者への支援を適切に行うことが求められている。

本研究課題では、新興・再興感染症研究に関する情報の収集、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価の支援及びこれらを通じて評価者、研究者等への支援方法等についての検討を行い、その成果を厚生労働省(具体的には、健康局結核感染症

A. 研究目的

平成21年4月に発生した新型インフルエンザ(パンデミック(H1N1)2009)への対応を例にあげるまでもなく、新興・再興感染症に対する迅速かつ適切な対応は、国民の健康を守る上で重要な施策の一つである。しかし、その対象となる感染症は多岐にわたっており、希少な感染症や今後の発生も想定される新たな感染症もある。このため、今後とも適宜適切な対応を行っていくためには、日頃から対応の基礎となる最新の知見を幅広く集積することが重要で、その研

課)へ提供することにより、我が国における新興・再興感染症対策の適切な実施に資する研究の推進に寄与することを目的としている。

B. 研究方法

1 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価等の支援

平成22年度に新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業により実施された公募研究課題(一般公募型及び若手育成型)に関して、厚生労働本省が行う研究の企画・評価等の支援として、以下1)~3)を行った。

- 1) 感染症研究の専門家による評価組織(以下「評価委員会」という。)との連絡、情報共有等の実施
- 2) 研究協力者(プログラムオフィサー)等による研究班会議への出席及び研究の進捗状況の把握、ピアレビューの実施と評価委員、厚生労働省との情報共有
- 3) 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において実施されている研究課題を対象とした研究発表会の実施

2. 新興・再興感染症研究に関する情報収集

国内外の会議への参加、文献収集等により、新興・再興感染症研究の企画・評価及び研究の実施に資する関連情報の収集と関係者との情報共有

3. 評価支援システムの開発

中間・事後評価委員会委員が、成果発

表会、中間・事後評価委員会前に予備評価を行うシステムを開発した。

4 疫学的方法論に基づく研究分類(研究デザイン)

疫学的方法論に基づく研究分類(研究デザイン)についてレビューを行った。

5 研究プレゼンテーション・ファイル書式の検討

研究発表会等で利用する研究プレゼンテーション・ファイル書式の現状とあり方について検討を行った。

(倫理面への配慮)

本研究課題においては、患者等の診療情報や試料、実験動物を用いることはなく、疫学研究に関する指針、臨床研究に関する指針等に関して特に配慮すべき内容は含まないが、研究者の個人情報や研究課題内容に関する情報等を収集することから、その取扱いについては研究者等に不利益を与えないように十分に配慮する。

C. 研究結果

1. 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価等の支援

(1)平成22年度実施公募課題(※1)

(中間・事後評価)

※1 平成22年度新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の公募研究課題

1年目研究課題 19課題 【資料 1】

2年目研究課題 15課題 【資料 2】

3年目研究課題 20課題 【資料 3】

1) 研究の進捗状況の把握及びピアレビュー

平成22年度に新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において研究を行う公募研究課題の研究代表者に対し、研究班会議開催についての情報提供を依頼し、本研究課題研究代表者及び3名のプログラムオフィサーが分担して出席可能な研究班会議に出席した(※2)。

研究班会議に出席した研究課題は、平成22年度に実施された公募課題研究54課題のうち21課題である。

※2 研究班会議出席状況等 【資料 4】

研究班会議の状況についてはレポートを作成の上、研究評価の参考資料として評価委員、厚生労働省との情報共有を行った。レポートは、中間・事後評価を実施する時期の1ヶ月前までに情報共有するとともに、その後、評価委員会までに開催された研究班会議についても適宜情報共有を行っている。

2) 研究成果の取りまとめ

全公募研究課題の研究代表者に対して成果概要の作成を依頼し、その取りまとめを行った。

この成果概要は、評価委員による評価資料とするとともに、各研究課題の研究代表者の了承を得た上で「研究成果の概要(※3)」として冊子を作成し、研究及び対策の実施に当たっての参考資料として新興・再興感染

症研究にかかわる評価者、研究者及び厚生労働省等の関係者に配布するとともに、セキュリティに配慮した上で、後述の研究発表会の状況と併せてweb上での閲覧を試行する。

※3 研究成果の概要 【別添】

3) 研究発表会の実施

2年目研究課題及び3年目研究課題を対象に、平成23年1月31日に研究発表会を実施した。

研究発表会は、評価委員によるヒアリング等の場とするとともに、他研究課題の成果を共有する機会として新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の全研究課題の研究代表者及び研究分担者にも参加を案内した。また、成果発表会での発表内容について関係者との情報共有を推進するため、発表者に了承を得て音声記録を行い、2)の研究成果資料とともにweb上で関係者における共有を試行することを予定している。

(2) 平成23年度 新規申請課題 (事前評価)

平成23年度研究課題として申請のあった研究課題について、採択の妥当性、研究規模等に関する評価委員による評価を適切かつ円滑に実施することを支援するため、申請課題の事前評価に関する資料の作成とヒアリング等の実施を支援し、その内容を厚生労働省へ提供した。

なお、ヒアリングについては、評価委員に対して行った評価方法に関する意見聴取等を踏まえて今年度から実施することとしたものである。

2. 新興・再興感染症研究に関する情報収集

厚生労働省の新型インフルエンザ専門家会議、新型インフルエンザワクチンに関する意見交換会、厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会等の傍聴、第4回日中韓感染症対策シンポジウム(平成22年11月24日-25日、於:北京市)、(独)国際協力機構(Japan International Cooperation Agency ; JICA)のプロジェクトである鳥インフルエンザ・サーベイランス・システム強化プロジェクト(平成23年1月9日-14日、於:インドネシア共和国ジャカルタ市、マカッサル市)見学、台湾疾病管制局との意見交換(平成23年2月17日)など、新興・再興感染症研究の専門家、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において研究を実施する研究者等との意見交換を通じて国内における関連研究に関する情報収集を行った。また、アジア地域を中心とした高病原性鳥インフルエンザウイルスの人への感染事例に対する研究面での課題、今後の研究の必要性についての情報収集を行うために、2003年以降、高病原性鳥インフルエンザウイルスの人への感染事例が続いている

ベトナムでの対応、特に検査診断に関する状況を調査した。

これらを通じて、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において推進すべき課題等の把握を行うとともに、今回の新型インフルエンザの発生を受け、分担研究者がアジアを中心とする開発途上国への対応支援の観点から求められる研究内容等についてインドネシアを中心に情報収集を行った。その結果、国内組織による研究の推進はもとより、アジアを中心とした国際的な共同研究の推進及び連携体制の構築の観点からも新型インフルエンザ等新興再興感染症研究事業を活用することの必要性、研究の企画とその課題設定等についての検討を行うことの重要性を認識した。

これらの新興・再興感染症研究に関して収集した情報は、厚生労働省における平成23年度の公募研究課題の立案・公募要項(※4)の作成の参考としても活用されることを想定し、適宜、厚生労働省と情報共有を行った。

※4 平成23年度厚生労働科学公募研究事業の概要等(抜粋)【資料5】

3. 評価支援システムの開発

現在、中間・事後評価委員会委員が、成果発表会、中間・事後評価委員会前に予備評価を書面により行っている。この業務を効率化するため、

WEBを用いて評価を行うシステムを開発した。

4. 疫学的方法論に基づく研究分類(研究デザイン)

介入研究、コホート研究、症例対照研究などが挙げられた。

5. 研究プレゼンテーション・ファイル書式の検討

研究発表会等で利用する研究プレゼンテーション・ファイル書式については、Windows版 PowerPointが82%、Mac版 PowerPointが15%、Mac版 Keynoteが3%を占めていた。

D. 考察

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の対象となる感染症は、新型インフルエンザを代表とする発生前から事前対応を求められている感染症、ウイルス性出血熱やSARSのように重篤な輸入感染症として認知されている新興感染症、麻疹や結核、インフルエンザのように社会的な問題として認知されている感染症、多剤耐性菌や成人の百日咳等しばしば報道もなされて認知が高まっている感染症、さらには一般国民にはあまり注目されていないと考えられる感染症等、非常に多岐にわたっている。また、一般的に注目されている感染症に対する研究の推進とその成果の対応への還元が重要であることは言うまでもないが、あまり注目されていないと考えられる感染症であっても、常に基盤的な研究が継続されなければ問題が発生した際の

対応が困難であることは明白であり、単に注目の高低のみで研究の意義や重要性を判断することは難しい。

国際共同研究に関しては、インドネシアでは、鳥インフルエンザは非常に機微な問題であり、かつ、外国の調査には警戒心をもっているため、鳥インフルエンザに関する調査をインドネシアで実施するのは非常に困難であることが実感された。双方のメリットを考慮した国際共同研究が求められる。

限られた予算と当該研究分野における研究者のマンパワーを最大限に活用し、これらの期待に応える効率的・効果的な研究を推進するためには、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価において、これまで実施されている研究の内容や成果を適切に把握するとともに、研究を取り巻く行政的なニーズ、国際的な研究の状況に基づく企画・評価等を行って効率的に研究を実施することが求められる。また、これらの企画・評価等に基づく研究を適切に実施し、確実な成果が得られるよう研究者を支援することは非常に必要と考えられる。

また、非常に多岐にわたる感染症に関する基礎から応用、自然科学的分野から社会科学的分野にいたる種々の研究課題を目的に応じて適切に評価するためには、数値的な評価指標のみでは困難であり、ピアレビューも含めた複数の視点から行われることが必要である。

質の高い研究を実施するためには、疫学的方法論に基づく研究デザインで実施し、研究結果を統計解析することが重要である。

研究成果のプレゼンテーションに用いるファイルの書式は、国際的にも標準化されておらず、しばらくの間は、複数の規格が共存し、少しずつ ODF (OpenDocument Format) と OOXML (Office Open XML)が普及していくと予想される。

E. 結論

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の適切かつ円滑な実施を図るため、新興・再興感染症関連研究に関する情報の収集及び当該研究事業において実施される研究の企画・評価及び研究実施の支援を行った。研究発表会の開催やピアレビューなど、評価の充実とともに、疫学的方法論に基づく研究の実施が、研究の質向上に役立つと考えられた。

F. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

平成22年度新規採択課題(1年目研究課題)

No.	課題番号	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名
1-1	H22-新興-一般-001	信澤枝里	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	室長	新型インフルエンザH1N1のウイルスの病原性等の解析に関する研究
1-2	H22-新興-一般-002	小林信之	国立国際医療研究センター病院呼吸器科	医長	新型インフルエンザH1N1の病態把握と重症化の要因の解明に関する研究
1-3	H22-新興-一般-003	切替照雄	(独)国立国際医療研究センター研究所感染症制御研究部	部長	新型インフルエンザ等の院内感染制御に関する研究
1-4	H22-新興-一般-004	石井健	(独)医薬基盤研究所創薬基盤研究部アジュバント開発プロジェクト	プロジェクトリーダー	インフルエンザワクチンの有効性と安全性の向上のための理論基盤構築
1-5	H22-新興-一般-005	小田切孝人	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	室長	地方自治体との連携による新型インフルエンザおよび高病原性インフルエンザ変異株、薬剤耐性株等の早期検出、検査診断系の改良および流行把握に関する研究
1-6	H22-新興-一般-006	森川茂	国立感染症研究所ウイルス第一部	室長	現在、国内で分離・同定できないウイルス性出血熱等の診断等の対応方法に関する研究
1-7	H22-新興-一般-007	牧野正彦	国立感染症研究所感染制御部	部長	結核等抗酸菌感染症における生体防御及び抗菌制御を介した治療予防法の開発戦略
1-8	H22-新興-一般-008	河野茂	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座	教授	真菌感染症の病態解明に基づく検査・治療法の確立と国内診断・治療ネットワークの構築に関する研究
1-9	H22-新興-一般-009	苅和宏明	北海道大学大学院獣医学研究科	准教授	海外からの侵入が危惧される野生鳥獣媒介性感染症の疫学、診断・予防法等に関する研究
1-10	H22-新興-一般-010	山田章雄	国立感染症研究所獣医科学部	部長	ワンヘルス理念に基づく動物由来感染症制御に関する研究
1-11	H22-新興-一般-011	木村博一	国立感染症研究所感染症情報センター	室長	重症呼吸器ウイルス感染症のサーベイランス・病態解明及び制御に関する研究
1-12	H22-新興-一般-012	竹田誠	国立感染症研究所ウイルス第三部	部長	早期麻疹排除及び排除状態の維持に関する研究
1-13	H22-新興-一般-013	生方公子	北里大学大学院感染制御科学府&北里生命科学研究所病原微生物分子疫学研究室	教授	重症型のレンサ球菌・肺炎球菌感染症に対するサーベイランスの構築と病因解析、その診断・治療に関する研究
1-14	H22-新興-一般-014	河内正治	(独)国立国際医療研究センター手術部	部長	高病原性鳥インフルエンザの診断・治療に関する国際連携研究
1-15	H22-新興-一般-015	清水博之	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長	エンテロウイルス感染症制御のための診断・予防治療に関する国際連携研究
1-16	H22-新興-一般-016	丸井英二	順天堂大学医学部	教授	情報弱者等への配慮を含めた感染症に対する適切な情報提供・リスクコミュニケーションに関する研究

1-17	H22-新興-一般-017	鈴木哲朗	浜松医科大学医学部医学科 感染症学講座	教授	培養細胞感染系の確立されていない病原体の実験技術の開発と予防診断法に関する研究
1-18	H22-新興-若手-019	黒田誠	国立感染症研究所病原体ゲノム解析研究センター	センター長	抗菌剤治療により寛解する難治性炎症性腸疾患患者の網羅的細菌叢解析と病因・増悪因子細菌群の解明
1-19	H22-新興-若手-020	西村順裕	国立感染症研究所ウイルス第二部	主任研究官	コクサッキーA16型ウイルス特異的受容体の同定と機能解析

平成22年度継続課題(2年目研究課題)

No.	課題番号	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名
2-1	H21-新興-一般-001	小野寺昭一	東京慈恵会医科大学 感染制御部	客員教授	性感染症に関する予防、治療の体系化に関する研究
2-1	H21-新興-一般-002	岡部信彦	国立感染症研究所 感染症情報センター	センター長	ワクチン戦略による麻疹および先天性風疹症候群の排除、およびワクチンで予防可能疾患の疫学並びにワクチンの有用性に関する基礎的臨床的研究
2-3	H21-新興-一般-003	寺嶋淳	国立感染症研究所 細菌第一部	室長	食品由来感染症調査における分子疫学手法に関する研究
2-4	H21-新興-一般-004	吉川泰弘	北里大学獣医学部 獣医学科人獣共通 感染症研究	教授	動物由来感染症のリスク分析手法等に基づくリスク管理のあり方に関する研究
2-5	H21-新興-一般-005	小林睦生	国立感染症研究所 昆虫医学部	部長	節足動物が媒介する感染症への効果的な対策に関する総合的な研究
2-6	H21-新興-一般-006	岸本壽男	岡山県環境保健センター	所長	リケッチアを中心としたダニ媒介性細菌感染症の総合的対策に関する研究
2-7	H21-新興-一般-007	向井徹	国立感染症研究所 ハンセン病研究センター 感染制御部	室長	ハンセン病の再発・再燃、難治症例に対する予防・診断・治療とハンセン病の啓発に関する研究
2-8	H21-新興-一般-008	荒川宜親	国立感染症研究所 細菌第二部	部長	新型薬剤耐性菌等に関する研究
2-9	H21-新興-一般-009	西條政幸	国立感染症研究所 ウイルス第一部	部長	臓器移植患者の予後およびQOLの向上のための真菌やウイルス感染症の予防・診断・治療に関する研究
2-10	H21-新興-一般-010	森島恒雄	国立大学法人岡山 大学大学院医歯薬 学総合研究科	教授	インフルエンザ脳症など重症インフルエンザの発症機序の解明とそれに基づく治療法、予防法の確立に関する研究
2-11	H21-新興-一般-011	加藤達夫	(独)国立成育医療 研究センター	理事長・総長	成人感染が問題となりつつある小児感染症への対応に関する研究
2-12	H21-新興-一般-012	谷口清州	国立感染症研究所 感染症情報センター	室長	国際的な感染症情報の収集、分析、提供機能およびわが国の感染症サーベイランスシステムの改善・強化に関する研究
2-13	H21-新興-一般-013	篠原克明	国立感染症研究所 バイオセーフティ管理 室	主任研究官	病原体等の登録・保管・輸送・廃棄に関する一括管理システムの開発と検証
2-14	H21-新興-一般-016	加藤誠也	(公財)結核予防会 結核研究所	副所長	結核対策の評価と新たな診断・治療技術の開発・実用化に関する研究
2-15	H21-新興-若手-014	大屋賢司	国立大学法人岐阜 大学応用生物科学部	准教授	動物由来クラミジアの自然界における存在様式の解明-比較ゲノム解析及び種特異的診断法の開発と実態調査

平成22年度終了課題(3年目研究課題)

No.	課題番号	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名
3-1	H20-新興-一般-001	工藤宏一郎	(独)国立国際医療研究センター国際疾病センター	センター長	我が国における一類感染症の患者発生時の臨床的対応に関する研究
3-2	H20-新興-一般-002	廣田良夫	大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学	教授	インフルエンザ及び近年流行が問題となっている呼吸器感染症の分析疫学研究
3-3	H20-新興-一般-003	高崎智彦	国立感染症研究所ウイルス第一部	室長	我が国における日本脳炎の現状と今後の予防戦略に関する研究
3-4	H20-新興-一般-004	山口一成	国立感染症研究所血液・安全性研究部	客員研究員	本邦におけるHTLV-1感染及び関連疾患の実態調査と総合対策
3-5	H20-新興-一般-005	田代真人	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	センター長	新型インフルエンザの発生予測、早期検知、リスク評価および大流行に対する事前準備と緊急対応に関する研究
3-6	H20-新興-一般-006	佐多徹太郎	国立感染症研究所感染病理部	部長	テロの可能性のある病原体等の早期検知・迅速診断法の開発とその評価法の確立に関わる研究
3-7	H20-新興-一般-007	押谷仁	東北大学大学院医学系研究科	教授	新型インフルエンザ大流行時の公衆衛生対策に関する研究
3-8	H20-新興-一般-008	原口義座	国立病院機構災害医療センター外科・臨床研究部	外科医長・病態蘇生研究室長	新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究
3-9	H20-新興-一般-009	杉山和良	国立感染症研究所バイオセーフティ管理室	室長	バイオリスク管理の包括的強化及び必要な教材等の開発と実践の評価に関する研究
3-10	H20-新興-一般-010	小林和夫	国立感染症研究所免疫部	部長	持続性結核菌感染の病原性や発症に関わる分子機構の解明及び治療・予防の基礎研究
3-11	H20-新興-一般-011	石川信克	(公財)結核予防会結核研究所	所長	罹患構造の変化に対応した結核対策の構築に関する研究
3-12	H20-新興-一般-012	宮崎義継	国立感染症研究所生物活性物質部	部長	COPD等における難治性感染症の病態把握等に関する研究
3-13	H20-新興-一般-013	渡邊治雄	国立感染症研究所	所長	アジアに研究機関との連携におけるラボラトリーネットワークに強化に関する研究
3-14	H20-新興-一般-014	岡田全司	独立行政法人国立病院機構近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター	センター長	輸入感染症としての多剤耐性結核の対策・制御に関する研究
3-15	H20-新興-一般-015	倉根一郎	国立感染症研究所	副所長	地球温暖化に伴い変化する感染症に対する早期防御法確立に関する研究
3-16	H20-新興-一般-016	野崎智義	国立感染症研究所寄生動物部	部長	顧みられない病気に関する研究

3-17	H20-新興-一般-017	菅又昌実	NPOバイオメディカルサイエンス研究会国際協力部門、情報収集・広報部門/首都大学東京大学院人間健康科学研究科	理事/教授	感染症情報国民コールセンター設置と実施に関する研究
3-18	H20-新興-一般-018	多屋馨子	国立感染症研究所感染症情報センター	室長	予防接種後健康被害審査の効率化に関する研究
3-19	H20-新興-若手-001	角田慎一	独立行政法人医薬基盤研究所創薬基盤研究部バイオ創薬プロジェクト	プロジェクトリーダー	有効かつ安全なインフルエンザ粘膜ワクチンの確立を目指した新規アジュバントシステムの開発
3-20	H22-新興-若手-018	岡智一郎	国立感染症研究所ウイルス第二部	主任研究官	ノロウイルス、サポウイルス感染症制御方法開発のためのウイルス増殖系の構築
3-21	H20-新興-指定-019	桐生康生H22.8 藤井紀男より 変更	国立感染症研究所	企画調整主幹	新興・再興感染症研究研究事業の企画及び評価に関する研究
3-22	H21-新興-指定-015	田代真人	国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター	センター長	細胞培養系を用いた新型インフルエンザワクチンの開発研究
3-23	H22-新興-指定-021	庵原俊昭	国立病院機構三重病院医局	院長	沈降インフルエンザワクチンH5N1新規株による免疫原性・交叉免疫性をを含めた追加接種効果に関する研究

研究班会議出席状況等

課題番号	研究代表者	研究課題名	開催案内の有無	PO等出席状況
H22-新興-一般-001	信澤枝里	新型インフルエンザH1N1のウイルスの病原性等の解析に関する研究		
H22-新興-一般-002	小林信之	新型インフルエンザH1N1の病態把握と重症化の要因の解明に関する研究		
H22-新興-一般-003	切替照雄	新型インフルエンザ等の院内感染制御に関する研究	有	7/23
H22-新興-一般-004	石井健	インフルエンザワクチンの有効性と安全性の向上のための理論基盤構築	有	9/14
H22-新興-一般-005	小田切孝人	地方自治体との連携による新型インフルエンザおよび高病原性インフルエンザ変異株、薬剤耐性株等の早期検出、検査診断系の改良および流行把握に関する研究		
H22-新興-一般-006	森川茂	現在、国内で分離・同定できないウイルス性出血熱等の診断等の対応方法に関する研究	有	2/7
H22-新興-一般-007	牧野正彦	結核等抗酸菌感染症における生体防御及び抗菌制御を介した治療予防法の開発戦略	有	12/10
H22-新興-一般-008	河野茂	真菌感染症の病態解明に基づく検査・治療法の確立と国内診断・治療ネットワークの構築に関する研究	有	
H22-新興-一般-009	苅和宏明	海外からの侵入が危惧される野生鳥獣媒介性感染症の疫学、診断・予防法等に関する研究		
H22-新興-一般-010	山田章雄	ワンヘルズ理念に基づく動物由来感染症制御に関する研究	有	12/3
H22-新興-一般-011	木村博一	重症呼吸器ウイルス感染症のサーベイランス・病態解明及び制御に関する研究		
H22-新興-一般-012	竹田誠	早期麻疹排除及び排除状態の維持に関する研究	有	1/24
H22-新興-一般-013	生方公子	重症型のレンサ球菌・肺炎球菌感染症に対するサーベイランスの構築と病因解析、その診断・治療に関する研究		
H22-新興-一般-014	河内正治	高病原性鳥インフルエンザの診断・治療に関する国際連携研究	有	7/9 1/7,8
H22-新興-一般-015	清水博之	エンテロウイルス感染症制御のための診断・予防治療に関する国際連携研究		
H22-新興-一般-016	丸井英二	情報弱者等への配慮を含めた感染症に対する適切な情報提供・リスクコミュニケーションに関する研究	有	2/4
H22-新興-一般-017	鈴木哲朗	培養細胞感染系の確立されていない病原体の実験技術の開発と予防診断法に関する研究		
H22-新興-若手-019	黒田誠	抗菌剤治療により寛解する難治性炎症性腸疾患患者の網羅的細菌叢解析と病因・増悪因子細菌群の解明		
H22-新興-若手-020	西村順裕	コクサッキーA16型ウイルス特異的受容体の同定と機能解析		

研究班会議出席状況等

課題番号	研究代表者	研究課題名	開催案内の有無	PO等出席状況
H21-新興-一般-001	小野寺昭一	性感染症に関する予防、治療の体系化に関する研究		
H21-新興-一般-002	岡部信彦	ワクチン戦略による麻疹および先天性風疹症候群の排除、およびワクチンで予防可能疾患の疫学並びにワクチンの有用性に関する基礎的臨床的研究	有	1/23
H21-新興-一般-003	寺嶋淳	食品由来感染症調査における分子疫学手法に関する研究		
H21-新興-一般-004	吉川泰弘	動物由来感染症のリスク分析手法等に基づくリスク管理のあり方に関する研究	有	7/24
H21-新興-一般-005	小林陸生	節足動物が媒介する感染症への効果的な対策に関する総合的な研究		
H21-新興-一般-006	岸本壽男	リケッチアを中心としたダニ媒介性細菌感染症の総合的対策に関する研究	有	
H21-新興-一般-007	向井徹	ハンセン病の再発・再燃、難治症例に対する予防・診断・治療とハンセン病の啓発に関する研究	有	
H21-新興-一般-008	荒川宜親	新型薬剤耐性菌等に関する研究	有	10/9 1/21
H21-新興-一般-009	西條政幸	臓器移植患者の予後およびQOLの向上のための真菌やウイルス感染症の予防・診断・治療に関する研究	有	
H21-新興-一般-010	森島恒雄	インフルエンザ脳症など重症インフルエンザの発症機序の解明とそれに基づく治療法、予防法の確立に関する研究		
H21-新興-一般-011	加藤達夫	成人感染が問題となりつつある小児感染症への対応に関する研究	有	9/25
H21-新興-一般-012	谷口清州	国際的な感染症情報の収集、分析、提供機能およびわが国の感染症サーベイランスシステムの改善・強化に関する研究	有	7/16
H21-新興-一般-013	篠原克明	病原体等の登録・保管・輸送・廃棄に関する一括管理システムの開発と検証		
H21-新興-一般-016	加藤誠也	結核対策の評価と新たな診断・治療技術の開発・実用化に関する研究	有	6/18 12/8
H21-新興-若手-014	大屋賢司	動物由来クラミジアの自然界における存在様式の解明-比較ゲノム解析及び種特異的診断法の開発と実態調査		

研究班会議出席状況等

課題番号	研究代表者	研究課題名	開催案内の有無	PO等出席状況
H20-新興-一般-001	工藤宏一郎	我が国における一類感染症の患者発生時の臨床的対応に関する研究		
H20-新興-一般-002	廣田良夫	インフルエンザ及び近年流行が問題となっている呼吸器感染症の分析疫学研究	有	9/11
H20-新興-一般-003	高崎智彦	我が国における日本脳炎の現状と今後の予防戦略に関する研究		
H20-新興-一般-004	山口一成	本邦におけるHTLV-1感染及び関連疾患の実態調査と総合対策		
H20-新興-一般-005	田代真人	新型インフルエンザの発生予測、早期検知、リスク評価および大流行に対する事前準備と緊急対応に関する研究		
H20-新興-一般-006	佐多徹太郎	テロの可能性のある病原体等の早期検知・迅速診断法の開発とその評価法の確立に関わる研究	有	
H20-新興-一般-007	押谷仁	新型インフルエンザ大流行時の公衆衛生対策に関する研究	有	
H20-新興-一般-008	原口義座	新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究		
H20-新興-一般-009	杉山和良	バイオリスク管理の包括的強化及び必要な教材等の開発と実践の評価に関する研究		
H20-新興-一般-010	小林和夫	持続性結核菌感染の病原性や発症に関わる分子機構の解明及び治療・予防の基礎研究	有	6/28 12/10
H20-新興-一般-011	石川信克	罹患構造の変化に対応した結核対策の構築に関する研究	有	6/22
H20-新興-一般-012	宮崎義継	COPD等における難治性感染症の病態把握等に関する研究		
H20-新興-一般-013	渡邊治雄	アジアに研究機関との連携におけるラボラトリーネットワークに強化に関する研究	有	12/28
H20-新興-一般-014	岡田全司	輸入感染症としての多剤耐性結核の対策・制御に関する研究	有	7/9 11/8
H20-新興-一般-015	倉根一郎	地球温暖化に伴い変化する感染症に対する早期防御法確立に関する研究		
H20-新興-一般-016	野崎智義	顧みられない病気に関する研究		
H20-新興-一般-017	菅又昌実	感染症情報国民コールセンター設置と実施に関する研究	有	6/30 12/16
H20-新興-一般-018	多屋馨子	予防接種後健康被害審査の効率化に関する研究	有	6/22 12/17
H20-新興-若手-001	角田慎一	有効かつ安全なインフルエンザ粘膜ワクチンの確立を目指した新規アジュバントシステムの開発		

H22-新興-若手-018	岡智一郎	ノロウイルス、サポウイルス感染症制御方法開発のためのウイルス増殖系の構築		
H20-新興-指定-019	桐生康生 H22.8藤井紀 男より変更	新興・再興感染症研究研究事業の企画及び評価に関する研究		
H21-新興-指定-015	田代真人	細胞培養系を用いた新型インフルエンザワクチンの開発研究		
H22-新興-指定-021	庵原俊昭	沈降インフルエンザワクチンH5N1新規株による免疫原性・交叉免疫性をを含めた追加接種効果に関する研究		

平成23年度厚生労働科学研究費補助金公募要項(抜粋)

<事業概要>

近年、新たにその存在が発見された感染症(新興感染症)や既に制圧したかに見えながら再び猛威を振る可能性のある感染症(再興感染症)が世界的に注目されている。これらの感染症は、その病原体、感染源、感染経路、感染力、発症機序についてさらに解明すべき点が多くまた変化も見られるため、発生の早期探知や適切な診断法、治療法等の開発等に常に取り組む必要がある。

中でも、新型インフルエンザについては、平成21年4月に発生した A/H1N1 は想定される再流行への対応や、従来からその発生が大いに懸念されている高病原性鳥インフルエンザ H5N1 から新たな新型インフルエンザが発生・流行した場合の対応等、いずれも蓋然性は低いことから、引き続き研究の推進が必要である。

また、現在、予防接種法の抜本的な制度の見直しが議論されるなかで、見直しは喫緊の課題であるが、その検討の学術的な基礎データを早急に整備する必要がある。

本事業は、新型インフルエンザに関する研究をはじめ、今後、国内で発生が危惧される感染症、近い将来克服されると考えられていたが再興のみられる感染症、国内での発生は少ないが国外から持ち込まれる可能性のある感染症等に対し、①その病原体、感染源、感染経路、感染力、発症機序に関する研究、②迅速な診断法や予防法・治療法等の研究開発、③これら研究開発を推進するための基盤的研究、感染症に関する医療体制の確保、適切な情報提供や院内感染防止など政策課題に関する研究等、幅広く国内外の感染症に関する研究を推進させることにより、これら感染症から国民の健康を守るために必要な研究成果を得ることを目指す。

この公募は、本来、平成23年度予算成立後に行うべきものであるが、できるだけ早く研究を開始するために、予算成立前に行うこととしているものである。従って、成立した予算の額に応じて、研究費の規模、採択件数等の変更が生じる場合等がある。

<新規課題採択方針>

新型インフルエンザ等新興・再興感染症について、国内への流入・まん延の防止、発生時の適切な対応のため、予防法、診断法、治療法の開発や、これらの開発に結びつく病態・感染機序の解明に関する研究、適切な行政対応の実施の基礎となる感染リスク評価・国内外の関係機関との連携協力の推進、国民への情報提供等に資する研究を行う(ただし、肝炎、HIVに関する研究を除く)。特に、新型インフルエンザに関しては、高病原性の鳥由来新型インフルエンザが発生した場合に備え、エビデンスに基づく新型インフルエンザ対策の再構築を図ることに資する研究を実施する。

また、現在、抜本的な予防接種制度の見直しが議論されるなかで、その検討及び今後の施策の推進のための学術的な基礎データを早急に整備するための研究を実施する。このほか、エボラ出血熱等の重篤な感染症、バイオテロの国内発生への対応、今なお患者数の多い結核に関する研究等も進めていく。